

【教育】市町村立小学校での校外学習の取組み（修学旅行）

支援者

- ・高崎市教育委員会
- ・高崎市立金古南小学校
- ・多機能型事業所ひびきっず



● 児の基本情報

名前・当時の年齢	Cさん（12歳）
障害・疾病名	脳性麻痺（細菌性髄膜炎による肺血症による後遺症） 現病歴
現病歴	生後10日後高熱にかかり緊急搬送。その後細菌性髄膜炎による敗血症を発症し、入院治療を受け治癒するも後遺症として脳性麻痺を認める。
医療的ケア	経管栄養、吸引（口鼻腔）

● 支援の背景や目的

支援を開始したきっかけや背景	【背景】 Cさんは重症心身障害を有し、日常的に医療的ケアを必要としている。<u>学校生活では教員や介助手の支援を受けながら活動しており※、これまでも健常児と同様に社会科見学などの校外学習を経験していた。</u> ※市町村立学校での受け入れにあたっての支援や、学校での生活の様子については、「【表1】背景：市町村立学校での受け入れ支援～学校での生活等」の表を参照 【きっかけ】 Cさんが学校・クラスの一員として、分け隔てのない学校生活を送ることが成長に不可欠であると考えたため。
支援の目的	・医療的ケアを必要とする児童が学校行事である修学旅行に安全かつ安心して参加できる環境を整える。 ・Cさんの体調やケアの必要性を踏まえつつ 学校生活の一環として行事に参加し、社会的経験の拡大と自己表現の機会を保障する。

● 支援の内容と方法

どのような支援を行ったか	・ C さんの体調面の安定を考え、学校、家庭、教育機関、当事業所が連携して準備を整えた。 ・ 医療的ケア中心になり過ぎず「学校行事に取り組む」児童の一員であることを意識した。 ・ C さんの体調観察、管理。時間・環境・体調を考慮しながらの経管栄養実施。 ・ 長距離移動のための、体調観察と姿勢保持。 ・ 校外でのおむつ交換・プライバシーの配慮
支援の方法	【表 2】具体的な支援内容（修学旅行の事前準備から旅行中のそれぞれの支援や役割等）参照

● 今後の課題やアドバイス

今後の課題や工夫した点	宿泊での郊外活動に対応できる看護師の確保が課題。今回は、本人を知っている事業所の看護師が思いも含め賛同し、協力してくれた。 同行した母との役割分担やバリアフリーのルートの確認など事前の準備や下調べが必要。宿泊先のスペース調整など事前確認項目をさらに明確化する必要あり。移動時の負担軽減のため体調変化に応じた休憩計画を強化する。 家族の協力なしに実施できるとよいが、現状では難しく、入浴や夜間の支援は母が担当。
同じ支援を行う他の支援者へのアドバイス	本支援を通じて医療的ケア児が学校行事の参加する意義を改めて実感した。C さんにとっては学びと喜びの機会となり周囲の理解促進にも繋がった。 医療的ケア児の行事帯同は緊張もあるが、『本人の世界を広げる』大切な機会である。支援者同士が丁寧に準備し、チームで支え合うことが成功の鍵となる。『安心と楽しさの両立』を意識しながら児にとっての特別な時間を一緒に創っていきましょう！ 前例がないことは大変だが、今後、続いていく子どもたちの参考になればと考える。

● 当事者・ご家族からの声

支援を受けた方の 反応や感想	修学旅行に参加できるかどうか、不安はありました。 けれど、学校や看護師、関係者の皆さんが「どうすれば一緒に行けるか」を考えてくださったことが、何より心強かったです。 当日は特別な扱いというよりも、自然な配慮の中で、子どもがクラスの一員として過ごせたことが嬉しかったです。 同級生もいつも通り接してくれ、その姿に6年間の積み重ねを感じました。
支援を通じて 得られた 子どもや 家族の変化	修学旅行を無事に終えられたことは、子どもにとって大きな自信になったと思います。 そして私たち家族にとっても、「できるかどうか」ではなく「どうすればできるか」を考える大切さを改めて実感する機会になりました。 また、日頃からの学校生活の中で築いてきた関係性や理解が、特別な行事の場面でも自然に生きることを実感しました。
同じ経験をして いる家族へ 伝えたいこと、 アドバイス	修学旅行は特別な挑戦ではなく、日々の延長線上にある行事だと感じています。 不安があるのは当然ですが、一人で抱え込まず、学校や支援者と早めに話し合うことが大切だと思います。 地域の学校での生活も、支援学校での生活も、どちらを選んでも正解です。 家族で真剣に考えた道であれば、それがその子にとっての最善の選択だと思います。 そして、日々支えてくださる方々への感謝を忘れずに、その経験が次の世代へとつながっていけばと願っています。